

## 26 当院における救急外来の現状 勤務医の過重労働は解決できるのか

三科 武・鈴木 聡・二瓶 幸栄  
松原 要一・大滝 雅博\*・渡邊 真実\*  
石原 良\*\*・阿部 寛政\*\*  
正岡 俊明\*\*

鶴岡市立荘内病院外科  
同 小児外科\*  
同 胸部外科\*\*

最近勤務医の不足とその過重労働が問題視されてきている。特に当院のような郡部の小都市における公立病院ではその傾向が顕著にみられている。当院の特徴として診療圏の患者移動が少なく近隣他地域の病院にかかりたがらない患者が多いこと、また救急対応の出来る病院が少なく、救急患者が多いことである。平成17年の救急受診患者は26,060人で、勤務医師数は研修医を除くと63名である。平成18年4月から9月までの6ヶ月間に時間外労働時間が月に80時間以上が2ヶ月以上の医師数は26名を数えた。今後医師の増員を目指してはいるが、勤務医の労働環境を改善することが出来なければ困難であると思われる。

## 第250回新潟循環器談話会

日時 平成19年2月10日(土)  
午後3時～6時  
会場 新潟大学医学部  
第五講義室

### I. 一般演題

#### 1 自己免疫性心筋炎モデルラットにおける桑葉の効果

国崎 恵・文 娟・水戸沙耶佳  
馬 梅蕾・T.V. Punniyakoti  
G. Narasimman・P.S. Suresh  
P. Prakash・F.K. Ali・R.A. Elbarbary  
R.A. Thandavarayan・B. Heshmatian  
渡辺 賢一

新潟薬科大学薬学部臨床薬理学

【背景・目的】桑葉(Mulberry・Morus alba)は蚕を育てるのに使われていて、その根は「MORI CORTEX」という生薬として様々な場面で使われている。また、桑葉は抗炎症・抗高血糖・抗細菌効果をもつとしてアジアの国々で昔から習慣的に使われており、最近では抗HIV・抗酸化などの効果も報告されている。様々なフラボノイドの効果が目立つ中、桑葉はフラボノイドの代表的なquercetinを含む。今回、桑葉の抗酸化効果に注目した。

【方法】9週齢の雄Lewisラットにブタミオシンを皮下注射し、自己免疫性心筋炎を発症させ、ミオシン投与後0日から21日間、自己免疫性心筋炎モデルラットの無治療群、5%桑葉投与群(M5)、25%桑葉(M25)投与群、及び健常群(Normal)に分けた。治療後、心行動態・線維化面積比・酸化マーカーであるp-22phox・心筋障害指標であるSERCA2・mitogen activated protein kinases (MAPKs, SAPK/JNK・p-38・ERK)の蛋白発現量・アポトーシス・Mast cell密度について検討した。